

ミクロ経済学入門 問題演習5

Chapter 6: Who should pay the tax ?

法政大学経営学部

この問題で学ぶこと

1. 誰が税を払っても、最終的な結果(取引量・受取金額・支払金額)は同じことを理解する。
 2. 労働市場の需要者は誰か、労働市場の供給者は誰かを把握する。
 - 財市場との違いを理解すること
- Graph Input Toolを使って分析する手法を身につける。

Who should pay the tax ? (Chapter 6)

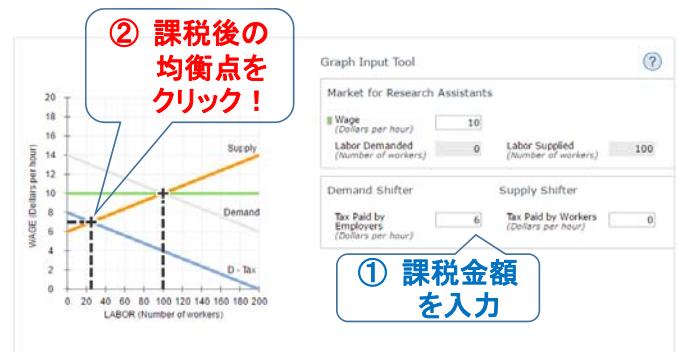
- The labor market for research assistants in the fictional country of Collegia. The equilibrium wage is \$10 per hour, and the equilibrium number of research assistants is 100.
- Suppose the government has decided to institute a \$6-per-hour payroll tax on research assistants and is trying to determine whether the tax should be levied on the employer, the workers, or both (such that each pays half the tax).
- ある国のリサーチアシスタントの労働市場
- 均衡: 10ドル(時給), 100人
- 課税: 6ドル…課税対象は、①雇用者, ②労働者, ③両者半々
 - ・この3ケースで、課税後の均衡を求めてみよう。

3

Graph Input Toolの使い方

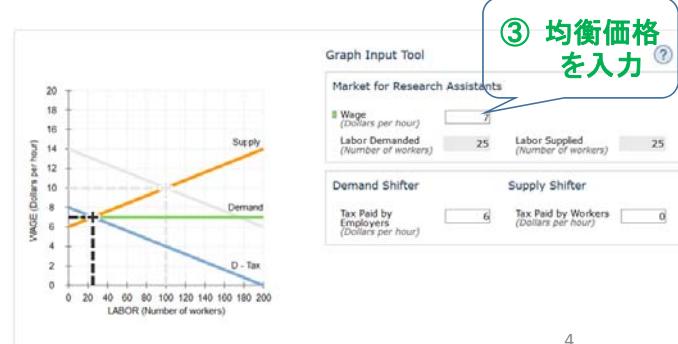
① Graph Input ToolのDemand Shifter/Supply Shifterに課税金額を入力

- ・誰がいくら負担するかに注意
- ・入力に応じて、需要曲線や供給曲線がシフト



② シフト後の需給グラフの均衡点をチェック

- ・グラフの均衡点でクリックすると、均衡価格・均衡数量が読める。



- ・課税後のLabor Demand とLabor Supplyが表示される。
- ・表示されたLabor DemandとLabor Supplyが同値であることを確認する(課税後均衡)。

4

Who should pay the tax?

① 雇用者(労働市場の需要者)負担の場合(A)

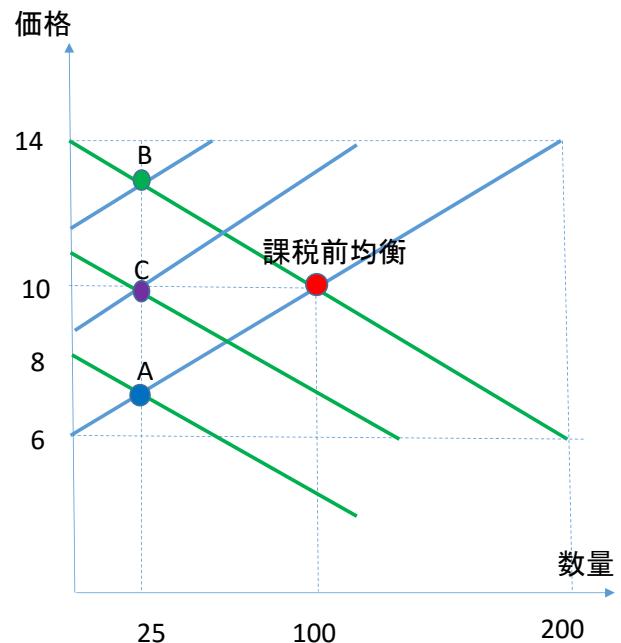
- 6ドルの課税を雇用者が負担 → 需要関数が下方シフト
- 均衡: A点(7ドル, 25)
- 雇用者は労働者に賃金7ドル、税を6ドル払う
- 労働者は7ドルを賃金として受取る

② 労働者(労働市場の供給者)負担の場合(B)

- 6ドルの課税を労働者が負担 → 供給関数が上方シフト
- 均衡: B点(13ドル, 25)
- 労働者は13ドルを賃金として受取、税を6ドル支払う
- 雇用者は13ドルを賃金として支払う

③ 両者が半々の負担の場合(C)

- 3ドルの課税を雇用者が・3ドルの課税を労働者が負担
→ 需要・供給関数のシフト
- 均衡: C点(10ドル, 25)
- 雇用者は労働者に賃金10ドル、税を3ドル支払う
- 労働者は雇用者から賃金10ドル受取、その中から税を3ドル支払う



賃金は異なるが、誰が税を支払っても、
均衡数量は同じ。課税後の支払金額・
受取金額も同じ。